

## 「最小限の家作り」第1回の集まりの報告 「仮設住宅研究会」

場所：NPO・NGOの家

日時：7月10日 夜6時から9時 第1部 9時から10時30分 第2部

参加者：根本岳彦、三木薫、三木陽子、前田裕司、前田淳子、加藤明、作美尚子、山下黎丈、千田正弘、千田富美子、加藤裕治、加藤恭子、相原海、相原佑子、岸義明、岩越松男、田中大樹、金氣興、池本幸生、中田早保、井上昌代、飛田文子、小林一郎、中村隆一、鈴木直子、東山光雄、安藤和夫、兼藤哲夫、兼藤忍、津田みちる、清山周一、笹村出、青武則、山田純、伊藤公博、藤本將、中原茂樹、中原美穂、佐々木ナオ、落ちている人すいません。記憶にある人がいたら連絡下さい。

あしがら農の会の紹介から始め、まず、一通りの自己紹介を行う。最後に、掛川の学園「花の村」から来ていただいた、役員の伊藤さんから活動の紹介をお願いし、会が始まる。

15年前、小田原で行われた、報徳ゼミナールで現在89歳の宮城正雄氏から、村の研究講座において、荒廃農地の問題が提起されたのが始まりである。環境・人間に優しい。「小さな農業」すなわち有機農業により増大する荒廃農地の再生を図る。「新村研究会」「光陽の里」「倉馬の里」で構成される。倉馬の里に住宅は建っている。島根大学の津野幸人名誉教授の指導により「小農論」が指導原理となっている。

次に藤本さんから「家作り研究会」の話を中心にお聞きする。藤本さんは現在事務局をされていて、川崎のかたで、掛川と行き来している。榛村前掛川市長の後援もあったが、行政の指導で、難儀が重なった。今は「倉馬の里」と言う5反の山林に、四トン車に載る重量鉄骨製の3坪ユニットを組み合わせる住宅を作り始めた、1ユニットは50万から60万円。整地等も含めて、10坪タイプで400万円かかる。バイオトイレつきの家で、3坪で可能。週末利用的なもの。水道は自主的に引いた。整地は協力者で格安にやってもらっている。ここでも行政の法的な指導に苦労している。将来はクラインガルデンの形で法的な背景を整備したいとのこと。掛川市の町作り委員会の中で、この活動が検討されている。

今後の進め方を笹村から、提案する。今回の進め方を出来る限り記録し、最終的に冊子として「自給自足の家作り」と言うように発表する。出来れば、全工程で、編集者の参加があることが望ましいので、心当たりを呼びかけてもらいたい。

ここでのノウハウはすべて公開し、自給を目指す誰でもが、自由に使えるものとする。専門家の参加も予定されていますが、ここで公表する事はすべて自由に使えるものとして扱いますので、出たくない部分については注意して下さい。

これからの進め方を整理します。

- 1、 アンケートを作り、考えを寄せていただく。叩き台のアンケートを後半に載せます。加えてもらいたい事があれば、出してください。
- 2、 第1回の話とアンケートに基づき、基本的な方向をまとめる。
- 3、 実際のプランを立てる。コンペ方式なのか。誰かに頼むのか。
- 4、 プランの精査を勧める。
- 5、 そこに住む、希望者の募集を行う。

- 6、 みんなで協力して実際に作ってみる。
- 7、 暮らしてみる。
- 8、 冊子としてまとめて、発表する。

#### 第1部の意見交換

##### 水土社の岩越さん

単純なグリットの組み合わせで作る。例えば三叉の構造。増殖する、カタツムリハウスの提案。畑に建てる農機具小屋を遊びとして、1棟建ててみる所から始めたら良いのではないか。パテントは大切、むしろ会で共有で持つ方向もあるのでは。出版は企画をたて、むしろ出したい出版社を選択したら良い。出版可能な企画だと思う。

##### ドウムハウスの小林さん。

15年ドームハウスを作ってきたと思うのは、家は自己責任で造るものであること、自分の考えを持つ事大切である。実際のドウムの説明をお願いします。間伐在で作る正三角形ドウムは継ぎ手45個、一個現価が千円。2,4メートルの柱、25本。ボルト締め。テントを上に乗るとすると10万円。集荷場に良いのでは。試作してみるのも良い事。

##### 創作家具の安藤さん

殺ぎ落とした最低単位を組み合わせる事が大切。一人の人が住む最低面積を考える必要がある。誰が住むのか、住む人の暮らしのあり様が、最小限の家に大きく影響する。先ず、農の会の基本的な思想を、もともと考えても良いのだろう。家を考えると言う事は各々の暮らしを考え、すり合せると言う事になり、まずできないことをやろうとしているとも言えるが、そこが興味深い。韓国の伝統的な民家の目線が興味深い。日本の西洋かぶれの家は話しにならない。トレーラーの組み合わせ住宅もある。2畳の部屋に住んだ体験談。高床式が、日本の風土には合うのではなかろうか。

##### 設計家の岸さん

3坪以下だから法的にクリアーできるという根拠はない。しばらく建築基準法、都市計画法の事が質疑される。法にまともに対するとたぶん不可能になる。山北はこの地域では可能性が高いという話も他の人から出る。

##### 養豚の相原海さん

法よりも地域で暮らして行く中で、地域の了解が得られる事のほうが大切。農業をしていると風呂は必要。シャワーでも可能か。自分の所では養豚所の並びに作りたいとは思っている。自作する事の重要性。研修生が住める家。つまり、起きて、農作業をして、寝る。そうした家を作るのもある。

##### 植木業の根本さん

実際の家イメージを煮詰めて行く事が大切ではなかろうか。

##### 山北の森林組合に関係する、東山さん

家は回りの状態によって大きく変わって行く。排水。上水はどうか。先ず場所を決めて考えないと、煮詰められない事が多いのでは。同感の意見が多かった。この地域の山の差し迫った状況の話がある。間伐材の利用と言う事で、材が手に入るからそれを利用して作ってみるのも一つのやり方。

##### 森林会議事務局の山田さん

最小限の暮らしの探求という事なのではないか。家は気持ち良く寝られると言う事が、大

切、高断熱高気密の家が日本人の健康度を高めたのは事実。安心して寝れるというシャエルトターの機能が重要。昔の日本の暮らしは夏の家と冬の家があった。法的にはクリアーされる形を模索する必要はある。地域から批判が出る形ではまずい。ティピ制作の体験談。

ティピにくらした兼藤さん

ティピに今暮らしている人への迫害の話。ティピは寒く煙い。今の日本人には無理であろう。森林公園の方に70年当時立てられ、実際に暮らしているティピがあるので見学が出来る。

東大の池本教授

アジアの住宅を見てきた体験から、ベトナムで見た3坪の家の話がある。政府は禁止している、高床式の重層構造の家で、5人か、6人が暮らしていた、素材は竹であったり、木であったり。家に鶏と一緒に住んでいた。作っている籠がアチコチにしまわれている。穀物の貯蔵もしている。雨水は水坪に貯められ一年中その水で暮らしている。3坪でも重層構造なら暮らしていた。

二宮で農業をしている井上さん

場所を決めないと行けない。田んぼなのか畑なのか。農作業小屋と言う考えの範囲と、それを超えて、住居というのでは大きく違う。そこから、暮らすには良い土地があるという話に広がる。家の持つ力、土地の持つ力は軽視できない。住むなら朝日の当たる場所が良い。人を呼べる家が良い。福島はやまなみ農場には自作の小さな家がアチコチに建っていた。内と外の間の中場所が大切。3坪といってもその周辺があるから成り立つ。

遠くへ帰る方もおられたので、9時で第1部終了。

第二部は自由な話し合いで、夢を語り合いました。10時30分終了。

発言は入り組んでおり、中には発言した覚えのない事が混じっている部分もあります。全体の流れで、理解していただき、ご了解下さい。笹村の記憶のみでまとめています。

=====

以下のアンケートは一切の制約がない前提で作るとしたらどう考えるか。お答え下さい。

- 1、自分が暮らすとすれば、最小限の家は、どのくらいの面積でしょうか。
- 2、その家はどんな所に建てたいですか。
- 3、幾らぐらいの予算を考えますか。
- 4、セルフビルドしますか。
- 5、最小限の家では、どんな事を一番大切にしたいですか。
- 6、エネルギーについては、どの様に考えますか。
- 7、どんな素材の家が良いと思いますか。
- 8、「最小限の家作り」を他の言葉に置きかえるとすると何かありますか。
- 9、加工施設。貯蔵施設。デッキ。高床。跳ね上げ窓。トラックコンテナの利用。雨水のタンク。バイオトイレ。風呂、あるいはシャワーの必要。井戸。外と内の繋がり空間。など意見が出ていますが、他に必要最小限と考えるものはありますか。
- 10、最小限の家で、守らなくてはいけないことがあれば。
- 11、出版についてはどの様に考えますか。

以上、農の会全体にメールで送らせてもらいますが、メールが現在届かない参加者も考えられます。気付いた方に手渡しをお願い致します。アンケートについてご返事を宜しく。